

## 第3回 荒川区地域経済活性化及び観光プロモーション推進協議会 次第

日 時:令和8年3月13日(金)  
午前10時00分

会 場:サンパール荒川5階  
第7集会室

### 1 開 会

### 2 区長挨拶

### 3 各分科会の成果報告について

(1) 地域経済活性化に関する分科会 成果報告

(2) 観光プロモーションに関する分科会 成果報告

### 4 意見交換

### 5 その他

### 6 閉会

#### (配付資料)

- ・資料1 地域経済活性化に関する分科会 令和7年度成果報告 p3～p7
- ・資料2 観光プロモーションに関する分科会 令和7年度成果報告 p9～p22

#### (参考資料)

- ・参考資料1 荒川区地域経済活性化及び観光プロモーション推進協議会 委員名簿 p23
- ・参考資料2 荒川区地域経済活性化及び観光プロモーション推進協議会 委員名簿 p24  
分科会別
- ・参考資料3 協議会のこれまでの開催日程について p25

# 地域経済活性化に関する分科会 令和7年度成果報告

分科会長 遠藤智久（株式会社日興エポナイト製造所 代表取締役）  
鈴木あづさ（Atashirashiku 代表）  
竹前友勝（平和商事株式会社 代表取締役）  
野城菜帆（株式会社MizLinx 代表取締役）

## 分科会におけるこれまでの取組成果

# 分科会各回での議題・意見の整理

分科会	令和7年度 開催日	議題	主な意見など
第1回	6月13日	・ 荒川区発の革新的企業を創出するためには	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 区の支援策を周知するための具体的な方法として、経験者からの口コミによる情報発信、企業間交流の促進などがある。区の支援策の認知度向上と起業家・企業のネットワーク形成を促進することで、荒川区発の革新的企業創出を加速。</li> </ul>
第2回	8月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 区内ものづくり技術のPR・活用に向けて</li> <li>・ 企業同士の交流、スタートアップとの連携を図るには</li> <li>・ 区内学校卒業生の区内企業就職に向けて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 区のセールスポイントとして例えば、製造業に関する困りごとは荒川区で全て解決可能、小ロット製造・要望に応じた試作品の製造が可能であること、地域コミュニティの近さなどがある。</li> <li>・ 企業交流の実施にあたっては、会員企業による定期的な勉強会等を実施する。</li> <li>・ 月に1回程度交流会を開催できるようなコミュニティスペース等の企業が集まれる居場所をつくる。</li> <li>・ 居場所だけでは不十分で、コミュニティマネージャーをつけたい。コミュニティマネージャーが、積極的に情報提供やマッチングを行うことで、コミュニティの活性化に繋がる。</li> <li>・ 日頃の事業で出てくる単純な困りごとを地域コミュニティの中でフォローし合う。こうすることで区内企業のノウハウにもなる。</li> <li>・ 今後、企業等のネットワーク構築にあたっては、対面での交流以外に、オンライン上でのコミュニケーションとして公式SNSの整備を図る。</li> <li>・ 大学、地域金融機関、関係団体等とも連携し、既存のものづくり企業やスタートアップをはじめとした創業間もない事業者が持続的成長を図られる仕組みづくりが必要である。</li> <li>・ 大手企業への就職が優先されるため大変厳しい状況であるが、在学中の交流・連携は有益。大手企業就職後に中小企業に転職するケースも見受けられており、交流経験が活かされる可能性もある。</li> </ul>
第3回	11月10日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 区内企業のデジタル化・DXに向けて</li> <li>・ ものづくり企業間のネットワークの構築に向けて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 区で様々なデジタル化支援を実施しているが、どこから手をつけたらよいか不明な方もいるため、気軽に相談できるような機能があると良い。また、その会社にあった段階的な支援体制も必要である。</li> <li>・ 登記可能な拠点があり、その拠点においてテーマ別交流会やセミナーを定期的開催するほか、その場で金融機関にも相談ができると効果的である。オンラインよりリアルの方が参加・連携促進にもつながることから、このような拠点を提供するなど、行政が環境づくりに関わっていくことが必要である。</li> <li>・ コワーキングスペース等の機能がある「ふらっとにっぽり」が拠点の候補として考えられるが、現状、コワーキング機能が十分に周知されているとは言えず、PRに向けた工夫が必要である。</li> <li>・ 西日暮里駅で計画されている再開発施設や、カフェなどでの気軽な交流イベントを開催するなど、快適かつアクセスの良い環境整備を進める必要がある。</li> </ul>
第4回	1月28日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 価格転嫁や賃上げに関する区内状況等について</li> <li>・ 分科会におけるこれまでの取組成果と次年度に向けて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大手企業から「価格交渉に応じる」と言われても、根拠となる原価計算データを作成できない町工場が多く、専門家による「交渉の武器(資料)」作成支援が急務である。</li> <li>・ 企業エコシステムに大企業もメンバーとして入れて、信用度を高めることで、スタートアップをはじめとした事業者を呼び込みたい。</li> </ul>

## ものづくり企業間のネットワーク構築の必要性

本分科会では、スタートアップとの連携や口コミでの情報発信・共有等の観点から、各委員からは区の製造業の強みを活かした「**ものづくり企業間のネットワーク構築の必要性**」について特に言及があった。

### ○ものづくり企業間のネットワーク構築にあたっての主な意見

- ・登記可能な拠点があり、その拠点においてテーマ別交流会やセミナーを定期的に開催するほか、その場で金融機関にも相談ができると効果的である。オンラインよりリアルの場の方が参加・連携促進にもつながることから、このような拠点を提供するなど、行政が環境づくりに関わっていくことが必要である。
- ・コワーキングスペース等の機能がある「ふらっとにっぽり」が拠点の候補として考えられるが、現状、コワーキング機能が十分に周知されているとは言えず、PRに向けた工夫が必要である。
- ・西日暮里駅で計画されている再開発施設や、カフェなどでの気軽な交流イベントを開催するなど、快適かつアクセスの良い環境整備を進める必要がある。
- ・居場所だけでは不十分で、コミュニティマネージャーをつけたい。コミュニティマネージャーが、積極的に情報提供やマッチングを行うことで、コミュニティの活性化に繋がる。
- ・日頃の事業で出てくる単純な困りごとを地域コミュニティの中でフォローし合う。こうすることで区内企業のノウハウにもなる。
- ・今後、企業等のネットワーク構築にあたっては、対面での交流以外に、オンライン上でのコミュニケーションとして公式SNSの整備を図る。
- ・大学、地域金融機関、関係団体等とも連携し、既存のものづくり企業やスタートアップをはじめとした創業間もない事業者が持続的成長を図られる仕組みづくりが必要である。

## 分科会におけるこれまでの取組成果

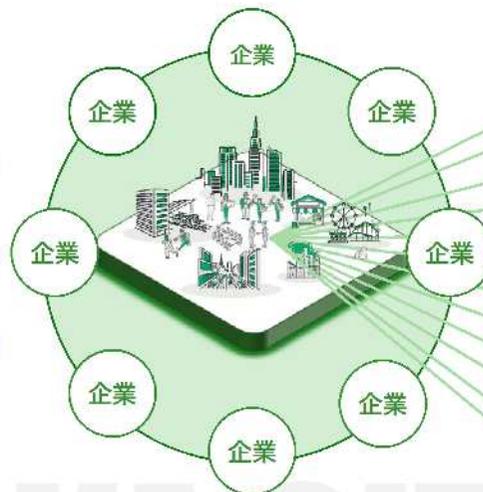
# (仮称)あらかわモノづくり企業エコシステム

スタートアップの誘致促進をはじめ、スタートアップ・大学・企業等の連携を強化し、区内産業の活性化を創出するため、(仮称)あらかわモノづくり企業エコシステムを構築したい。

### 事業イメージ

## 地域企業間のエコシステム構築で区内産業の活性化を創出

### 取り組み想定



- 情報発信・交換・共有
- 異業種等の交流会、勉強会・研究会
- 区内企業見学ツアー
- ピッチコンテスト
- メンバー企業情報のPR
- ネットワークサイトから試作品等の受注
- メンバーによる共同受注
- 創業間もない企業への相談・メンター支援
- 共同採用活動（インターン受入、共同面接会）
- 企業×スタートアップ×大学新製品開発
- 外部コミュニティとの連携・協業
- 地域課題解決に向けた協働（ローカル・ゼブラ企業創出等）

### サポート機関による支援

創業支援施設 連携大学・高専・研究機関等 荒川区 地域金融機関 商工・産業団体など

## 地域経済活性化分科会における8年度取組

### ○（仮称）あらかわモノづくり企業エコシステム構築に向けた詳細検討

- ・令和9年度からの運用開始を目指し、（仮称）あらかわモノづくり企業エコシステム構築を図るための詳細検討を行う。
- ・検討にあたっては、地域経済活性化分科会において協議するほか、専門家からのヒアリングや他区の事例等も踏まえながら、実効性のあるプラットフォームの構築を図る。

#### 【主な検討内容】

- プラットフォームの目的の明確化、効果的な運営形態のあり方、有効な事業プログラムの検討、運営の要となるコーディネーター人材の配置検討、効果的なPR手法の検討など

令和7年度 観光プロモーション分科会

# 活動報告

令和8年度 実施方針

分科会長

丸山 慎二郎  
山田 章博  
田中 類  
細谷 誠

2026年3月13日



## 本日の流れ (アジェンダ)

- 01 共通の軸
- 02 令和7年度：やったこと (整理)
- 03 10の施策 (事業提案)
- 04 令和8年度：実施予定の2企画**
- 05 ユナイトーク実証 (ワンハートシャワー復興支援イベント内)
- 06 同時進行テーマ
- 07 R7で見た課題 (構造) と、次の進め方
- 08 事業提案ロードマップ (分科会案)
- 09 締め



TURNING  
POINTS  
OF  
TOURISM

## 共通の軸（理念／目指す未来／約束 + 強み）

### ♥ 【理念】

楽しいことを正しくしていく。  
“人と人が繋がる観光”を荒川区から。

### 📍 目指す未来

観光を入り口に、  
仕事・暮らし・文化・人とのつながりが自然に  
生まれ、  
“また来たくなる／もっと関わりたくなる”  
まち・荒川へ。

### 🔗 約束

小さな成功体験を積み重ね、  
無理なく続く  
「荒川モデル」  
を育てていく。



STRENGTH

### 【荒川の強み】

荒川の魅力は、施設だけではなく「暮らし」「人」「物語」にある。



Scene

下町の人情と  
賑わいのある風景

## 令和7年度：やったこと（報告）



### 施策の整理・提案

分科会として、観光プロモーションの施策を**10案**として整理・提案



### 論点の明確化

各施策における実現性・運用性・体制の論点を洗い出し



### 実施への絞り込み

令和8年度に向けて、具体的な実施に移すための選定まで進捗

“

座長まとめ

R7は**‘構想の棚卸し’**から**‘実施の入口’**まで進んだ1年。

STEP 01  
アイデア出し

NOW  
整理・論点整理  
10案 絞り込み

STEP 03  
R8 実施・運用

R7



## 10の施策（事業提案）

### 01 荒川ユナイトーク コミュニティ

誰もが登壇し「想い」を語れるスピーチイベント。地域のカフェ等で開催し、関わり合える空気感を醸成。

### 03 Arakawaカルチャースクール 教育・育成

子ども・若者向けのデザイン・地域愛育成プログラム。将来の観光・地域リーダー候補を育てる。

### 05 荒川異文化ステイ 滞在・宿泊

空き家活用、「暮らすように泊まる」体験拠点。地域文化や人との交流を体験できる宿泊施設。

### 07 荒川鉄道都市伝説 イベント

鉄道×謎解きイベントで周遊性を向上。新たな観光体験と地域資源の発掘につなげる。

実施予定

### 09 あらかわりンクス DX・連携

店舗・主催者連携の専用オンラインコミュニティ。情報交換と信頼ベースのネットワーク構築。

### 02 荒川スナック物語 ナイトエコノミー

スナックを「まちの社交場」として観光コンテンツ化。夜の文化発信と地域経済の活性化を図る。

### 04 荒川きれいプロジェクト 環境整備

トイレ・公園等の美化で「表のおもてなし」を底上げ。誰もが安心して使える公共スペースへ。

### 06 荒川マネー 地域経済

区内在勤・在住者へ給与一部を地域マネーとして支給。区内消費の循環を促進。

### 08 荒川遊園夜市 イベント

あらかわ遊園内にて夜市を実施。夜間の賑わい創出と園の活用促進。

### 10 ノスタルジック・アラカワ ブランディング

レトロな食文化と人情風景で「温かさ」を発信。国内外の観光客へ荒川の魅力を届ける。

実施予定

## 令和8年度：実施決定（2企画）



DECISION 01

### 荒川鉄道都市伝説（仮称）

鉄道×謎解きイベント。都電荒川線をはじめとする区内の鉄道網を舞台に、周遊性と滞在時間を最大化する体験型コンテンツ。

→ 地域の周遊性向上・観光資源の発掘



DECISION 02

### ノスタルジック・アラカワ（仮称）

レトロな食文化と人情風景。世界の「味覚の穴場」として注目される荒川の魅力を「温かさ」とともに発信するブランディング事業。

→ インバウンド誘客・地域ブランド確立



# [ 貼付 ] 企画案：荒川鉄道都市伝説（仮称）

## II 荒川区観光プロモーション企画提案書（企画者：細谷）

### 07 荒川鉄道都市伝説（仮称） ～消えた駅と3つのヒミツ～

#### 企画概要

鉄道にまつわる“ちょっと不思議な話”をテーマに、駅や沿線のまちを舞台とした参加型の謎解きイベント。参加者は「都市伝説マップ」とヒントを手に、ポスター・音声・商店街の看板などに仕掛けられた謎を解きながら街をめぐる。ファミリーや若者、鉄道ファンも楽しめる「ストーリー×まち歩き」体験で、荒川区のまちの魅力を再発見する。



1 駅物の形式「国田川原」  
※国田川原駅近く、120坪の歴史を刻む駅物ターミナル



2 国田川原駅の国田原（ニノ原）  
※国田川原駅南側の一角にスタートゲート



3 国田原の駅「荒川線南口」



4 国田川原「駅」の駅、国田川原駅の駅

#### 目的

- 1 鉄道とまちの“物語”を巡した新たな観光体験の創出
- 2 駅や駅周辺店舗への回遊性を高め、地域のにぎわいを生む
- 3 子どもも大人も楽しめる“想像力”を刺激する街歩きを実現

#### コンテンツ例

- ・日暮里駅前にイベントブースを設けて、謎解きのスタート地点とする貼られた「都市伝説ポスター」にQRコードが…？
  - 音声や動画で「消えた駅」の手がかりが得られる
  - ・商店街の店先にだけある“謎の記号”を解読せよ！
  - 店員さんとの会話がヒントになる場合も
  - ・最後のスポットにある「幻の駅名標」前で答えを記入し、ゴールへ！
  - 正解者には証明書と記念品をプレゼント
  - ・親子で楽しめるストーリー設計
    - 「ぼくのおじいちゃんが語ってくれた…幻の駅の話」など

#### 運営の工夫

- ・リアルとデジタルを融合：ポスター、音声、WEB連動のヒントを配置
- ・沿線店舗との連携：ヒント配布や参加者との対応でまちに溶け込む仕組み
- ・ストーリー進行型構成：謎が進むごとに物語が展開する没入感
- ・参加キットの工夫：地図+ミッションカード+紙入帳を一体化し携帯性UP
- ・クリア特典で満足度向上：オリジナルバッジや“幻の駅”ポストカードなど
- ・家族日にも遊べる開催も可能：日暮里～町屋エリア、都電沿線ごとに分割展開できるスケールビリティ

#### イベント参加者の回遊の流れ

- ① [START] 日暮里駅※他に基点を置いてもいい！：謎解きキット配布+プロログ導入
- ↓
- ② 音入ライナーで「国田原」へ（約5分）：高架鉄道での非日常体験+空中風景
- ↓
- ③ 徒歩で「都電・国田川原三丁目」へ：謎解き+商店街・下町風情ゾーン（所要10分弱）
- ↓
- ④ 都電で「荒川沿線地蔵」「三ノ輪橋」方面へ：一小時も風景体験/ゴール地点設置
- ↓
- ⑤ ゴール
  - 国田川原、町屋駅、三ノ輪橋などをゴール地点として、できる限り各場所まで滞在（買い物や食事）をしてもらう。

## [ 貼付 ] 企画案：ノスタルジック・アラカワ（仮称）

### II 荒川区観光プロモーション企画提案書（企画者：全員）

## 10 ノスタルジック・アラカワ（仮称） Nostalgic Arakawa

#### 企画概要

世界の“味覚の穴場”として注目された荒川区の魅力を、「レトロな食文化」と「まちな人情風情」で表現。昔ながらの面影が残る商店街や食屋や銭湯や路地を舞台に、国内外の観光客が“懐かし”と“温かさ”を味わえる体験型プロモーションを展開する。



#### 目的

- 1 地元の“なつ”を、旅人にとっての“特別”に変える
- 2 観光をきっかけに、人と人とのつながりを育てる
- 3 地域と一緒に楽しみながら、無理なく続けられる仕組みをつくる

#### ターゲット

- ・ インバウンド観光客（リピーター層）
- ・ 日本国内の“ディープ東京”好き旅行者
- ・ 映像・写真映えを求めるSNSユーザー
- ・ 食・ローカルカルチャーに関心のある若者・クリエイター

#### 主な施策例

1. **ノスタルジックMAP配布**  
レトロ食堂・商店街・喫茶店などのおすすめスポットを、写真付きの英冊マップで紹介。
2. **レトロ飯まちあるきツアー**  
通訳ガイド付きで、3〜4軒のローカル飲食店を巡るツアー（和菓子・ラーメン・惣菜・立ち飲みなど）。
3. **味の記憶 写真＆動画キャンペーン**  
#NostalgicArakawa でSNS投稿を促進。優秀作品は観光案内所やWebサイトで展示。荒川探訪（英語版（まだない））に食と路地などのコースを入れる。
4. **音声ガイド・多言語コンテンツ**  
店主の声や料理の物語を収録したスマホ運動音声ガイドを提供（英・中・仏など）。
5. **外国人クリエイター招致プログラム**  
映像・写真・文章で荒川を紹介する滞在型レポーターを招き、YouTubeなどで発信。

#### 実施エリア例

- ・ ショイフル三ノ輪商店街
- ・ 町屋駅前エリア
- ・ 尾久鍛冶通り
- ・ 日暮里の古民家カフェ・銭湯周辺

#### 期待される効果

- ・ 観光客の商店街回遊・食業利用促進
- ・ 荒川区の独自性ある“観光ブランド”確立
- ・ 地元店主や住民との交流を通じた文化的価値向上
- ・ SNS・YouTubeなどでの海外認知度向上

#### 今後の展開と課題

- ・ ノスタルジックフードフェス in 荒川 もんじゃフェス
- ・ ノスタルジックARAKAWA号（トックトック）を数台走らせる。
- ・ 「あらかわ写真展」過去の写真が蓄まれている地図と現在の地図が現在している
- ・ マップ作製 SNS制作 WEB制作など 制作および運営業務
- ・ 外国人とのマナーを共有 押えるのではなく共存する。
- ・ 宿泊できる施設などをどうしていくかを真剣に検討
- ・ 全企画との連携制

● 観光ガイドブック「下町のトリセツ」が完成！

## ノスタルジック・アラカワ：進め方の整理と“今後の課題”

### 01 今どうなっているか

令和8年度、ノスタルジック・アラカワは「おさんぽマップ」「食べ歩きマップ」的な制作物を想定して、予算化が進んでいる。  
令和7年度には、先行実施として観光ガイドブック「下町のトリセツ」も作成された。

### 02 この企画の本来の価値

本企画の価値は、マップを作ること自体ではなく、荒川区の魅力発信をつなぐことにある。

区公認SNS、広報課シティープロモーション、他部署の施策、既存観光同線と連動することで、単体の制作物以上の価値が生まれる。

### POINT

### 03 このまま進むと何が起きるか

連動先や役割分担を十分に整理しないまま制作・入札に進むと、分科会で協議してきた意図が反映されにくくなり、結果として“点の施策”で終わる可能性がある。

せっかくの企画が区全体の発信設計につながらないまま終わる恐れがある。

### 04 だから、先に整理したい

大切なのは制作の前に、位置づけ・連動先・役割・同線を整理すること  
これは進め方の順番の整理と考えます。

連動制作 政策実行

この企画は、マップを作ることが目的ではなく、荒川区の魅力発信をつなぐ企画である。

## 荒川ユナイテーク：実証（ワンハートシャワー復興支援イベント内）

位置づけ ・ ルームハートが行う「ワンハートシャワー（復興支援イベント）」の枠内で実施

📷 実証風景

実施 ・ 2時間のプログラムとして「荒川ユナイテーク」を開催

### 登壇者

・北豊島学園 女子高校生 2名	形式	各10分スピーチ
・株式会社中央バフ 代表取締役 倉澤 亮 様	参加	50名以上

### ☑ 実施結果

会場が一体となり、想いが共有され、非常に感動するシーンが生まれた。  
参加者からも「地域の人々の熱い想いに触れられた」との声が多数。

### CONCLUSION

設備よりも語り手場聴き手の設計で  
成立する手応えがあった。

## R8同時進行で詰めていくテーマ（設計フェーズ）



### Arakawaカルチャースクール

目的・運営・対象を詳細に設計し、形にするための準備期間



### あらかわリンクス

安全なコミュニティのための運用設計（ルール・参加形態・セキュリティ等）を詰める



### 荒川遊園（夜市など）

園側との実現に向けた調整と、具体的な運営スキームを詰める

“

NEXT PHASE

アイデアと実行の間にある「詰める工程」を確実に遂行。



# 事業提案ロードマップ (分科会案)

## ★ 重点企画5本

ノスタルジック・アラカワ (仮称)

荒川鉄道都市伝説 (仮称)

Arakawaカルチャースクール  
～子どもたちの未来デザイン塾～ (仮称)

あらかわリンクス (仮称)

荒川遊園夜市 (仮称)

## 🌀 その他企画

荒川ユナイトーク

荒川スナック物語

20

年度	R7(1~3月)	R8	R9
1	<p>民間による企画</p> <p>さらなる支援内容検討 (場所・広報・参加者・賞品等の補助など)</p>	<p>民間主体での実施</p> <p>補助金支援</p>	<p>さらなる支援</p>
2	<p>先進事例等調査・事業者調査</p>	<p>民間による企画案検討</p>	
3	<p>内容のブラッシュアップの検討</p>	<p>予算化に向けた詳細検討</p>	<p>実施</p>
4	<p>多言語案内・ピクトグラムの事例調査</p> <p>アートトイレ等の周辺自治体・先進事例等調査</p>		
5	<p>先進自治体・事業者調査</p> <p>空き家物件の確認(防災都市づくり部)</p>		
6	<p>周辺自治体・先進事例等調査</p> <p>プレミアム商品券の利用状況確認</p>	<p>商店街向けキャッシュレス化の促進</p>	<p>実施に向けた課題検討 (費用と効果、スキーム)</p>
7	<p>仕様書案作成</p>	<p>実施(契約手続 制作 開催 効果検証)</p>	
8	<p>夜間開園 視察</p> <p>夜市実施スキーム検討 単発での実施に向けた課題取りまとめ</p> <p>遊園課に相談</p>		<p>実施の協議</p>
9		<p>具体化に向けた 仕組み・基準の検討</p>	<p>実施(既存SNSの活用想定)</p>
10	<p>マナーブック作成</p> <p>フォト キャンペーン</p> <p>効果検証</p>	<p>効果検証</p> <p>グルメマップ・音声ガイド 作成</p>	<p>マナーブック第二弾</p>

## R7で見た課題（構造として整理）

次年度に持ち越さないために、R7の学びとして一度「紙にした」整理

### 01 横断が必要な企画は、1つの課だけでは進みにくい

観光施策は、教育・広報・地域連携など、複数の部署や関係者が関わる前提のものが多い。だからこそ、最初から横断型の進め方が必要になる。

### 02 アイデアの次に必要なのは、「詰める工程」

良い企画でも、目的・体制・継続性・費用対効果が整理されなければ予算化しにくい。  
アイデア 設計・調整 予算化の流れが重要。

### 03 「まだ見えない」は、育てる出発点

新しい企画は、最初から完成形が見えないことも多い。大事なのは、見えないから止めることなく、対話しながら見える形にしていくこと。

### 04 だから、先に“協議する時間”を確保する

横断施策ほど、予算化や実施の前に関係者で方向性を揃える時間が必要。先に協議し、整理してから進めることが重要。

→ 「横断で整理してから、実行に進む」

## 締め（座長報告）

“

令和8年度は、まず **荒川鉄道都市伝説** と **ノスタルジック・アラカワ** の2本を確実に形にします。

そのうえで、ユナイトークのように「荒川らしさ」が伝わる企画は、実証も踏まえて育てていきたい。

そして来年度は、誰かの頑張りに頼らず、横断と連動が回る「**進め方の型**」を整えます。

皆さんと一緒に、  
荒川の観光を 「**続く力**」 にしていきたいです。

観光プロモーション分科会  
メンバー一同



”

## 荒川区地域経済活性化及び観光プロモーション推進協議会 委員名簿

NO	氏名	事業所名・役職	備考
1	えんどう 遠藤 ともひさ 智久	株式会社日興工ボナイト製造所 代表取締役	協議会長・分科会長
2	まるやま 丸山 しんじろう 慎二郎	株式会社 ROOM810 代表取締役	協議会副会長・分科会長
3	すずき 鈴木 あづさ	Atashirashiku 代表	
4	たけまえ 竹前 ともかつ 友勝	平和商事株式会社 代表取締役	
5	たなか 田中 るい 類	株式会社イナック 代表取締役	
6	ほそや 細谷 まこと 誠	有限会社丸文製菓 代表取締役	
7	やしる 野城 なほ 菜帆	株式会社 MizLinx 代表取締役	
8	やまだ 山田 あきひろ 章博	山与織物株式会社 代表取締役	

(敬称略)

荒川区地域経済活性化及び観光プロモーション推進協議会 委員名簿  
分科会別

1 地域経済活性化に関する分科会

NO	氏名	事業所名・役職	備考
1	えんどう ともひさ 遠藤 智久	株式会社日興工ボナイト製造所 代表取締役	分科会長
2	すずき あづさ 鈴木 あづさ	Atashirashiku 代表	
3	たけまえ ともかつ 竹前 友勝	平和商事株式会社 代表取締役	
4	やしろ なほ 野城 菜帆	株式会社 MizLinx 代表取締役	

(敬称略)

2 観光プロモーションに関する分科会

NO	氏名	事業所名・役職	備考
5	まるやま しんじろう 丸山 慎二郎	株式会社 ROOM810 代表取締役	分科会長
6	たなか るい 田中 類	株式会社イナック 代表取締役	
7	ほそや まこと 細谷 誠	有限会社丸文製菓 代表取締役	
8	やまだ あきひろ 山田 章博	山与織物株式会社 代表取締役	

(敬称略)

## 協議会のこれまでの開催スケジュールについて

### 1 全体会

第1回：令和7年 5月30日

初 回・全体の方向性の共有、意見交換

第2回：令和7年10月16日

分科会の検討状況の共有、意見交換

### 2 分科会

#### (1) 地域経済活性化に関する分科会

第1回（現状や必要な取組に関する意見交換）：令和7年6月13日

第2回（方向性や具体的な取組に関する意見交換）：令和7年8月20日

第3回（中長期的な課題に関する意見交換）：令和7年11月10日

第4回（意見交換の取りまとめ）：令和8年1月28日

#### (2) 観光プロモーションに関する分科会

第1回（現状や必要な取組に関する意見交換）：令和7年6月12日

第2回（方向性や具体的な取組に関する意見交換）：令和7年8月5日

第3回（中長期的な課題に関する意見交換）：令和7年12月10日

第4回（意見交換の取りまとめ）：令和8年1月23日